

*カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに定めた人格を養成するため、文学研究科博士後期課程に、英文学専攻（英文学コースおよび英語学コース）、比較文化学専攻の2専攻を置きます。博士前期課程で身につけた学識と能力をさらに発展させ、研究者として自立した活動をおこなうのに必要な高度の研究能力を養い、博士学位の取得を目標とした研究指導をおこないます。

英文学専攻（英文学コースおよび英語学コース）においては、以下の方針でカリキュラムを編成します。

英文学コース

1 専門分野における高度の専門知識・技能と研究手法を身につけ、自らの研究課題を深化・発展させるための科目を設置すること（アメリカ文学特論、イギリス文学特論）

2 専門的な指導のもとで各自の研究課題を深め、博士学位論文の執筆をすすめるための研究指導科目を設置すること（博士論文執筆演習）

英語学コース

1 専門分野における高度の専門知識・技能と研究手法を身につけ、自らの研究課題を深化・発展させるための科目を設置すること（言語理論特論、言語学特論）

2 専門的な指導のもとで各自の研究課題を深め、博士学位論文の執筆をすすめるための研究指導科目を設置すること（博士論文執筆演習）

比較文化学専攻においては、以下の方針でカリキュラムを編成します。

1 各専門分野における高度の専門知識・技能と研究手法を身につけ、自らの研究課題を深化・発展させるための科目を設置すること（比較文化学特殊研究）

2 専門的な指導のもとで各自の研究課題を深め、博士学位論文の執筆をすすめるための研究指導科目を設置すること（比較文化学合同演習）

3 多彩な専門領域をもつ比較文化学専攻院生全員と教員が集う場での研究報告を通じて、総合的・領域横断的視座への研究課題の位置づけを促す科目（比較文化学総合演習）を設置すること

上記方針に基づく科目編成においては、体系的・系統性の理解を促すため、学問分野、科目間の連携や科目内容の難易度を表す科目番号および、必修科目、選択必修科目、選択科目などについての科目記号を学修便覧等につけ、なおかつ、教育課程の構造をカリキュラム・マップやカリキュラム・ツリーで分かりやすく明示します。